

銀行間大口資金決済について

大阪大学 竹内 隆浩

決済システムは、支払指図の発生から実際にその決済が完了するまでの時間に応じて、大きく即時グロス決済(real-time gross settlement :RTGSシステム)と時点ネット決済(designated-time net settlement: DTNSシステム)の2つに分類される。RTGSでは、DTNSに比べて決済のためにより多くの流動性を保持する必要があるが、1行の決済不履行が他のシステム参加者の支払不能を連鎖的に引き起こす、いわゆるシステムック・リスクの削減に有効であるといわれており、現在では大口決済システムの安定維持に関してDTNSよりもRTGSが望ましいとの見方に収斂してきている。

しかしながら決済リスクの削減だけに重点を置いたシステムでは、(流動性確保の必要性が大きくなることから)金融機関の営業活動に大きな制約を課すことになり、ひいては経済全体の資金循環を妨げることに繋がりがかねない。よって決済システムを評価する際には、システムの安全性だけでなく資金循環の効率性についても評価の対象とし、この両者のトレード・オフを十分に考慮する必要があると考えられる。

本報告では、まず複数の金融機関と中央銀行を参加者とする決済システムを考える。個別の金融機関は、各意思決定時点において将来時点の自己資本の最大化を目標として自由に行動するものとし、その際の金融機関の最適化行動を考える中央銀行は、金融機関が独自の最適化行動に従って行動したときに、そのシステムの下での決済リスクとシステム維持のコストに加えて、経済全体から見た資金の循環を考慮に入れてシステムの評価を行う。以上のような設定の下で、

- (1) システムの違いによって金融機関の最適化行動がどう変化するのか、
- (2) 中央銀行の視点から見てどのシステムが最適なのか、

について考察する。

参考文献

- 日本銀行(2000)『金融機関の決済リスク管理について』日本銀行調査月報2000年2月号。
Bank for International Settlement (1989) *Report on Netting Schemes*.
Bank for International Settlement (1997) *Real-Time Gross Settlement Systems*.
Kobayakawa,S.(1997)" *The Comparative Analysis of Settlement Systems*." CEPR Discussion Paper ,
No.1667.
Koponen , R . and Sorama " ki , K .(1998) "*Intraday Liquidity Needs in a Modern Interbank Payment System – A Simulation Approach*."Studies in Economics and Finance E :14, Bank of Finland.